

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	薩摩川内市指定 第4690200185号
法人名	社会福祉法人 白寿会
事業所名	グループホーム 和
訪問調査日	平成 22 年 3 月 25 日
評価確定日	平成 22 年 5 月 17 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	薩摩川内市指定 第4690200185号		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホーム 和		
所在地	鹿児島県薩摩川内市中福良町2911番地1 (電話) 0996-22-0753		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月25日	評価確定日	平成22年5月17日

【情報提供票より】 (22年 2月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人 非常勤1人	常勤換算7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有 (円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要 (2月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.3 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手塚医院	若松歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地に介護老人保健施設やデイサービスなどがあり、それらの事業所の利用者と交流しながら、入居者・家族は安心して過ごしている。管理者・職員は運営理念に添った年間の事業計画を作成し、利用者に誠実に向き合い、その人らしい幸福な暮らしを目指して支援している。自己評価や外部評価に真摯に取り組み、サービスの向上に活かそうと努めている。研修も計画的に実施し、今後の充実が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価の意義やねらいをふまえて、全職員で自己評価に取り組み、具体的な改善点を話し合い、サービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>会議は、定期的開催し事業所の取り組みや課題など報告し、多くの意見を引き出し会議録にも詳しく記録している。ホームへの理解や家族の思いを聴く良き機会になっており、意見は運営やサービスに活かされている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>重要事項に相談窓口を明記し、玄関に意見を気軽に言えるよう書く用紙を準備している。面会時や運営推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。意見は職員会議で話し合い運営に活かすよう努めている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>職員の出勤時や利用者の散歩時に挨拶や会話をしたり、子育て中の親子との交流の機会を設けている。また、地域の自治会で行われる認知症予防等の勉強会で、相談活動等をしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を見直し、地域密着型サービスとして、地域との関わりを加えて、事業所独自の運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業計画の中に運営理念を明記し、職員会議で話し合い、毎日のケアの中で、理念にそった支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の出勤時や利用者の散歩時に挨拶や会話をしたり、子育て中の親子との交流の機会を設けている。また、地域の自治会で行われる認知症予防等の勉強会で、相談活動等をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価の意義やねらいをふまえて、全職員で自己評価に取り組み、具体的な改善点を話し合い、サービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の取り組みや課題など報告し、多くの意見を引き出し、議事録もくわしく記録している。委員のホームへの理解が得られたり、家族の思いを聴く機会になり、意見は運営やサービスに活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの実態や状況・制度等、機会を捉えて相談し、運営やサービスの課題解決に向けて、協力関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	個別に面会時や電話等で、入居者の様子など随時報告している。定期的に個別の便り等にホームの様子や職員紹介など記載し送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見や要望などを気軽に聞けるよう努めている。玄関に用紙を用意し何でも書けるよう配慮している。出された意見や要望はミーティングで話し合い、迅速に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者が馴染みの職員による支援を受けられるよう、異動や離職を最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修を受講したり、ホーム内研修を計画的に実施し、全職員に研修の機会が確保され、サービスの質向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと情報交換や相談・連携を図り、お互いにサービスの質向上するよう努めている。地域の連絡協議会に参加の予定である。	○	ネットワーク作りや勉強会・相互訪問などの活動を通じて、交流に取り組む、ケアの向上を図ることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族と懇談し要望などを聞いたり、ホームの見学を勧め雰囲気や様子に馴染むよう工夫している。法人のデイサービスからの入居者には、時々デイに行くなどの配慮もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や趣味・得意な事などを把握し、昔の事や料理の事など利用者から教えてもらったり、いろいろな作業段階で一緒に参加する場面作りを工夫し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや意向を聴いたり、困難な場合は表情や動きから確認している。また、家族から情報を得たりして、本人本位に検討するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を取り入れ、職員で話し合い、具体的で身近な目標を設定した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて、モニタリング・評価を行って計画を見直し、本人や家族の希望や意見を聴き、職員と話し合い関係者の意見を反映した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い、通院介助・買い物支援・墓参りなど、個々の満足度を高めるよう柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。主治医の往診もあり状態変化時はすぐに相談ができ、専門医への適切な受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期の対応については、体制作りはおこなっていない旨を説明している。本人や家族の意向を尊重し、主治医や職員と話し合い対応を考えている。	○	重度化や終末期に対するケアについて、本人・家族・主治医・職員で話し合い、方針を共有する事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応を行うよう職員間で配慮している。採用時に個人情報保護の誓約書を取って、守秘義務やプライバシー保護について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決めているが、一人ひとりの体調に配慮しながら、起床や食事・昼寝の時間等、ゆっくりとそれぞれのペースで過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を実施し、入居者が満足するよう努めている。調理の下ごしらえや配膳・下膳と一緒にいき、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴できる。入浴を拒む人には声かけやタイミングを図ったり、家族の協力をもらいながら、入浴を楽しむよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り込みチラシでゴミ箱を作ったり、洗濯物をたたんだりして役割や楽しみごとの支援をしている。また、桜や梅などの花見やソーメン流しなどに出かけたりして気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ウッドデッキでの語らいや広い敷地内を散歩・ドライブなど、ホームに閉じこもらないで、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、日中に鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員間で連携を取り合い、安全に配慮しながら自由な生活を見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、消防訓練は併施設と合同で実施している。		地域の人々や他の事業所の協力が実際得られるように、日頃からの話し合いの取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分や食事の摂取量をチェックして記録している。献立は母体法人施設の栄養士に作成してもらい、栄養バランスに考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けられ、居間や廊下も広く畳コーナーもあり、居心地良く過ごせるよう配慮している。ウッドデッキや談話コーナー、展示室など、くつろげる空間が設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力でテレビやタンス・ぬいぐるみなど、使い慣れたものや馴染みの物を持ち込み、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。